

平成25年度第2回宝塚市パブリック・コメント審議会議事録

- 1 開催日 平成25年11月18日(月) 10時00分～12時00分
- 2 開催場所 宝塚市役所3階 特別会議室
- 3 出席者 委員7名、事務局4名
- 4 議事  
(1) 平成24年度に実施したパブリック・コメント手続の個別評価及び運用状況について

- 事務局 <開会>  
出席者委員の報告。8名中7名の出席で過半数、審議会は成立。  
傍聴希望者はなし。
- 会長 平成24年度実施のパブリック・コメント手続10件について、評価シートと総合評価表に各委員が評価を記入したものを、事務局でとりまとめている。その資料をもとに評価をしていきたい。まず、事務局から評価内容を説明してもらおう。
- 事務局 (資料1、2、3について説明)
- 会長 今回、総合評価で「D」、「E」の評価をした委員はいなかった。まず「資源ごみ持ち去りを禁止するための条例改正(案)について」を審議する。  
「A」評価が2人、「B」評価が5人、「C」評価が1人で、「A」を5点、「B」を4点・・・「E」を1点として平均点を出すと、「4.13」となり、最高平均点が「4.25」なので第2位グループとなる。一旦「B」と評価しておいてはどうか。
- 委員 (同意)
- 会長 次の「宝塚市景観計画(案)について」の審議に入る。「A」評価が2人、「B」評価が6人で平均点が「4.25」で最高平均点である。
- 委員 全体的に専門的で分かりにくいと感じた。
- 委員 同じく専門用語が分かりにくいと感じた。宝塚カラーが「7.5YR」と記載されているページがあるが、白黒なので何色なのか不明。その部分だけでもカラーにし視覚に訴えるとわかりやすい。
- 委員 内容ではなく、読みやすいかどうかで判断すると読みやすいと感じた。
- 会長 専門的で分かりにくいという部分も、一生懸命分かり易く書くという努力も認められるという部分も事実であるので、双方とも

意見として出したらよい。それは、各委員の評価コメントにも現れている。どちらも正解である。景観行政そのものが技術的な世界である。専門的分野でありながら、分かり易くしようとする努力が認められる。

- 事務局 今年度は、相対的に平均点が高い。昨年度は、平均点が「4」を超えたのが1案件だけで、そのみが「A」評価を得た。
- 委員 今年度のパブリック・コメント手続きは、顕著に良くなっているとの印象である。
- 会長 昨年度に比較し、評価の基準が変わってはいけけないので、最高平均点を取っていることから、「A」評価とし、「景観行政の専門性は理解できるが、専門用語、技術用語は、できるだけわかりやすく砕いて記述する努力を一層加えてほしいとの意見があった。」と付帯意見をつけることでどうか。
- 委員 (同意)
- 会長 3番目の「宝塚市協働の指針(案)」の審議に入る。「A」評価が2人、「B」評価が5人、「C」評価が1人で平均点が「4.13」である。1番目と同平均点であるが、機械的に評価するわけではないので、各委員の意見をお願いしたい。
- 委員 この案件は、市民を巻き込んで非常に熱心にやっていた。策定委員が頻繁に「協働の指針(案)」の説明をしていた。
- 委員 意表をつくような副題で良い。
- 委員 意見が結構たくさん出ていて、それに対する市の考え方もきちっと書けている。ただ、課題のコメントにあったように修正箇所を網掛けするなどした方が、なお良かった。
- 会長 先ほどの事務局の示唆にあったように、昨年度と比較し、評価基準が変わるといけけないので「A」評価とするが、課題があることを伝えることとし、同平均点の1番目も課題を付しての「A」評価とすることでどうか。
- 委員 (同意)
- 会長 4番目の「プラスチック類を分別収集しリサイクルすることについて」の審議に入る。「A」評価が1人、「B」評価が4人、「C」評価が3人で平均点が「3.75」で平均点としては最下位である。各委員の意見をお願いしたい。
- 委員 何に意見を求めているのかわかりにくい。中間答申(案)そのものをパブリック・コメントにかけたところに問題がある。リサイクルを継続するか否かということなら話は分かる。

- 事務局                   パブリック・コメントは、出た意見により中間答申（案）を変えられるタイミングで行ったものである。
- 会長                   「このような中間答申（案）となっているが、最終答申するまでに一度諮ることにする。経済的・環境的に現行方式が最も良いと判断しているが、それで良いか、もっと違う見方があるかを問う。」ということであればわかるが、中間答申（案）そのものに対する意見募集なのか、プラスチック類の分別収集しリサイクルすることへの意見募集なのか、判別しにくい。
- 努力する余地がある。「C」評価でどうか。
- 委員                   （同意）
- 会長                   5番目の「子どもの読書活動推進計画（第2期）案に対するパブリック・コメント」の審議に入る。平均点が「4.25」で最高平均点グループである。各委員の意見をお願いしたい。
- 委員                   気になったのは意見募集書が後に綴じられていること。表紙の次に綴じられるべきでないのか。
- 会長                   実際にはどのように配布しているのか。
- 事務局                  実施機関から提出のあったそのものを審議会資料としている。今後、綴じる順番についても実施機関に指導する。
- 委員                   パブリック・コメント手続としては良かった。
- 会長                   市民の意見に回答していないところがあるとの指摘があるが、回答に空白があるということか。
- 委員                   子どもの読書活動推進計画策定委員の名簿が掲載されているが、ほとんど職員である。他にも図書館協議会の委員に意見を聞いているとの記述があったが、図書館協議会の委員には公募委員もあり、市民の意見が反映されていることを表すため、その名簿も掲載した方がよかったのではないかという意味である。
- 会長                   市民が計画策定に関わっているはずなのに、それが見えないという問題点があるとの意見である。
- 最高平均点であるので、今の意見を付して「A」評価とすることでどうか。
- 委員                   （同意）
- 会長                   6番目の「宝塚市文化基本条例（案）について」の審議に入る。「A」評価が3人、「B」評価が4人、「C」評価が1人で平均点が「4.25」で最高平均点グループである。各委員の意見をお願いしたい。
- 今までの例からいくと、条例策定委員会ではなかったのか。

- 事務局 文化活動している市民に研究委託したうえ、条例化にこぎつけた。
- 会長 策定経過の記載が少ない。先ほど来の意見からいうと、策定経過及び策定に関わった市民、市民団体、行政の内部機関をもっと明らかにすべきとの意見を付しておいたほうが良い。
- 委員 その方が、行政主導ではなかったことが理解でき、良いことである。
- 会長 意見を付して、「A」評価でどうか。
- 委員 (同意)
- 会長 7番目の「自転車の安全利用に関する条例(案)について」の審議に入る。「A」評価が1人、「B」評価が5人、「C」評価が2人で平均点が「3.88」である。
- 委員 綴じる順番がおかしい。概要版は前につけたほうが良い。せっかく良い概要版であるのに、最初に条例案があると読む気がしない。
- 事務局 次年度から、綴じる順番も実施機関に指導することとする。
- 委員 「逐条」という言葉が使用されているが、市民は使ったことが無くわかりにくい。難しい言葉を避けることが必要である。
- 会長 中身は丁寧で親切に記載されており、担当者の熱意を感じる。しかしながら、編綴順がおかしい。また、「逐条」等の難しい役所言葉は、市民向けに変える必要がある。
- 委員 評価は「B」とするが、先の意見をつけることでどうか。
- 委員 (同意)
- 会長 8番目の「一般廃棄物処理基本計画(案)について」の審議に入る。「A」評価が2人、「B」評価が5人、「C」評価が1人で平均点が「4.13」である。
- 委員 表現がきっぱりしていて良いのだが、市民が受け止めたときに、行政主体になっていてもうこれ以上意見は聴かないとの印象を受ける。もう少し、やわらかい表現で良い。
- 会長 あっさりしていて、簡潔であるとも言える。
- 委員 今まで見た中でも、この概要版はなかなか良い。
- 委員 わかりやすい表記であると評価している。
- 委員 資料自体たくさんあるのだけれど、コンパクトな概要で読む市民からするとありがたい。
- 会長 審議会の評価としては、「A」評価でどうか。
- 委員 (同意)

- 会長 コメントに「専門的な箇所がある」とあるが、そうは感じなかった。
- 委員 専門用語には注釈があった。説明も丁寧である。
- 会長 9番目の「地域防災計画修正素案について」の審議に入る。「A」評価が1人、「B」評価が6人、「C」評価が1人で平均点が「4.00」である。各委員の意見をお願いしたい。
- 委員 法律等で決まっている部分に意見が出せず、評価が難しかった。
- 委員 案の中に記載されている施設担当者は計画素案を知らないし、読んでいない。
- 委員 読んでいないではなく、読んでもらうよう実施機関が努力しなければならない。
- 委員 そういう意味では、付帯意見としてつけたほうが良い。
- 会長 そもそも元の地域防災計画が市民に浸透していないのに、修正すると言われても、何がどう変わるのかわからない。今回の修正とともに、もともとの防災計画の骨格もわかりやすく説明する必要があった。
- 委員 小さな字でこれだけの膨大な資料をつけるということは、市民の方はなるべく読まないでというメッセージにとってしまう。
- 会長 役所の論理にアンダーラインを引いてここが変わったといわれても、市民は理解しがたい。新しい防災はこうであると示して、ついでに前から比べてここが変わりましたと後で説明すれば良かった。防災計画を市民に伝えるチャンスであった。
- 委員 防災マップにはコンパクトにまとめられている。これなら手元において参照できるが、このパブリック・コメントの資料を市民は読まない。
- 会長 実施機関は、パブリック・コメントをかけなければという問題意識が先行している。そうではなく、パブリック・コメントを通じ防災の仕組みを市民に伝えるチャンスだったのではないかと。  
変わったといわなくても、現在こうなっていると、最後に新たに強化された部分、変わった部分を説明しパブリック・コメントすればわかりやすかった。変わったといわれても、そもそも元をわかっていない。
- 事務局 地域防災計画全体は、膨大なもので、変更のあったところは何ページのどこに記載があり、どのような変更がなされと、一工夫必要なことは確かだが、担当者としては膨大な計画の中で、何とか市民の理解を得ようと努力していると見受けられた。

- 会長 行政の世界にいたものから見ると努力の後が見られると評価できるが、市民から見たときにどうかという問題である。
- 委員 一所懸命なのは理解できる。
- 委員 防災計画は他市でもやっているが、なかなか一般市民の理解を得ることは難しい。
- 会長 担当者の努力は認めるところであるが、後一工夫ほしい。
- 委員 文章ばかりでなく、計画変更後の防災マップの原案があったと思うので、それをつけてパブリック・コメントすれば良かった。だから概要を図式化する必要があると課題をあげた。
- 会長 概要そのものを視覚化する工夫が必要だった。
- 委員 評価としては「B」とすることでどうか。
- 委員 (同意)
- 会長 次に、10番目の「災害時要援護者支援指針(案)について」の審議に入る。「A」評価が3人、「B」評価が3人、「C」評価が2人で平均点が「4.13」である。
- 委員 9番目のパブリック・コメントと違い対象が絞られているので、わかりやすい。
- 事務局 市民の意見に対する市の考え方を記載する際、「意見のとおり修正する。」や「原案どおりとする。」といった結論を先に記載する例が多いが、その点統一する必要があるか。
- 会長 結論を先に書くことに統一する。
- 委員 このパブリック・コメントについては、「意見を取り入れる。」や「原案どおりとする。」といった結論を記載しづらい例である。この場合は、「意見尊重」としてその後に説明することになる。
- 会長 評価としては「A」とすることでどうか。
- 委員 (同意)
- 委員 市役所にあまり来ない市民が意見を持参するときのため、意見募集の際、市役所何階等所在を記載する必要があると考える。
- 事務局 次回から記載するよう標準フォーマットを変える。
- 会長 10件の個々の評価を終えたので、総括的な評価、特記事項、よりよいパブリック・コメント手続のため意見を伺いたい。
- 委員 今年度は、全体として高い評価ができる。いままで審議会が言ってきた副題をつけること、先ほど議題となった結論を先に書くなど、非常に良くなってきた。まだまだ工夫が必要などところもあるが、懸命に取り組んでくれて、格段にレベルが上がった。
- 会長 次に、パブリック・コメントの運用状況に移る。事務局から資

- 事務局
- 会長

料4の説明をお願いします。

(資料4について説明)

すみれ墓苑の事業(基本)計画の修正は、パブリック・コメントを実施しなかったという報告である。すみれ墓苑の事業(基本)計画の修正は緊急案件であったというものである。

本日出た各委員の意見、評価結果を整理して答申(案)を作成する。答申(案)は、作成後各委員に事前に送付し、次回の審議会で最終的に各委員の意見により最終調整し、市長に提出する。

次回の開催日程は平成26年1月23日(木)午後1時30分とする。